

囲いやま森の会 活動記録

2008.1.9 野口 功

日 時: 2008.1.5 (土) 10時~ 天気: 晴

記録・写真: 山田幸子

観察記録

新しい年のはじまりは、同じ時間のつながりなのに、何故か特別の存在と思えてきます。

囲いやまの森にも、新年のあらたまった気分が感じられます。

私は誰でしょう？ 普段見過ごしてしまいそうな、植物の表情を集めてみました。

囲いやまの片隅でひっそりと、しかし、したたかに生命をつなげています。名前も、哀しい存在を現しています。嫌われても、むしり採られても、いつのまにか蔓を伸ばして行って、花を咲かせています。そうです、私はクズです。

今回は、クズの冬芽を写してみました。嫌われ者のクズですが、冬芽はとても可愛いです。

じっと見ていると、誰かの顔に見えてきます。ルーペで一度観察してみてください。

- 1) クズの根は、年数を経ると長く太くなり、多量の澱粉(デンプン)を貯えます。このデンプンからつくったものが、葛粉(葛きり、葛餅の原料)です。今では、貴重なものとなっています。根を乾燥したものは、漢方で風邪薬として使われています。
- 2) 秋の七草のひとつです。山上憶良の歌で、「萩の花尾花葛花撫子の花、女郎花また藤袴朝顔の花」と、歌われています。
- 3) アメリカ原産のセイタカアワダチソウは、日本で増えすぎて嫌われています。一方アメリカでは、日本のクズが大繁茂しています。畑の作物を覆い尽くして、嫌われています。
- 4) ヤマコウバシが2本ほどありました。ヤマコウバシはクスノキ科で、枯れた葉が冬でも沢山残り、春になってから落ちます。
- 5) ヒサカキの花芽が大きくなってきています。神社によく植えられているサカキとともに、神事に使われます。春先に小さな花を沢山つけ、秋には黒い実をつけます。ヒサカキの葉には鋸歯があり、鋸歯のないサカキと見分けることができます。

開花植物

木本 ヤツデ・キツタなど

草本 セイタカアワダチソウなど

実のついている植物 ネズミモチ・アオキ・ノイバラ・マユミ・シュロ・マサキなど

鳥 シジュウカラ・コゲラ・モズ・ヒヨドリ・ツグミ・アオジ・メジロ・カワラヒワ・シメなど

キノコ スエヒロタケ・カワラタケ・アラゲキクラゲ・サルノコシカケの仲間・アオスギタケ?



草地や木々を覆うクズ



花は8~9月に咲く



マメ科多年草のクズの実

困いやまの森

2008.1.5(土) 山田幸子
クズの冬芽: 葉痕劇場
春になると冬芽から芽吹きます

